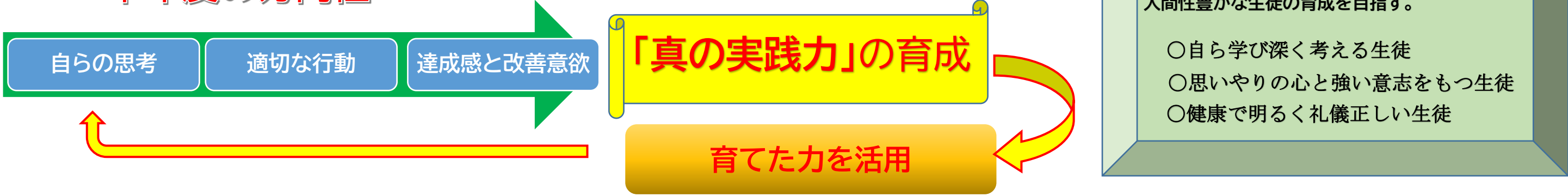


令和7年度 明豊中学校 経営方針

本年度の方向性



- ・「自らが学習すること」は、自分のためであるとともに、社会のためであるとの、社会貢献意識を有する生徒の育成を目指す。
- ・人とのつながりの中で自分を考え、行動する力を育成するとともに、地域協働を本校の教育活動全般に広げ、本校の特色とする。また、それらを根源とした「実践力の育成」を目指す。
- ・教師力の向上を常に目指すとともに、家庭・地域の教育力の向上のための指導を展開し、魅力ある学校づくりを目指す。

知
徳
体

- ・授業では、毎時の目標を必ず提示するとともに「振り返り」を行い、生徒個々に自分の学習進捗状況と課題の把握、並びに到達達成感を味わう様に指導する。
 - ・評価に関して研修を深め、社会の変化に耐え、評価に関する信頼性を高める評価計画を作成し、適切に実施する。
 - ・学びの内容を、自らの学習成果にとどまらず、地域・社会発展に生かす意識と態度を育成する。
 - ・教育活動全般において、GIGAスクールの理念を追求するとともに、デジタル一辺倒ではなく、アナログの良さを両立させた指導展開を重視する。
 - ・授業の内容を自分事として捉える道徳の授業改善と評価について工夫する。
 - ・昨年までの取り組みや研究発表を生かして、小中学生や地域との連携・協働を継続し、全生徒に広げるとともに、本校の特色として定着させていく。また、それらに関連して、本校のCSの方向性を模索し、実践する。
 - ・授業における学術的知見や、生徒指導に関する手立ての共有化を図るとともに、ナレッジマネジメントを意識したデータ化を推進し、活用できるようにすすめる。
- ・「あいさつ」は単に礼儀ではなく、自他の関わりと存在を認める人間関係と人権尊重の基本と捉え、励行するよう指導するとともに、社会のスタンダードである「先言後礼」の徹底を図る。
 - ・特別の教科道徳を始め、教育活動全般において多くの発表の場を設定し、自分の言葉で表現できる思考力・判断力と実行力の育成を図り、それらを活用できるように進める。
 - ・様々な行事について、自らの心を見つめ、人とのつながりの中で自分を考え、行動する機会と捉え、心を育てることを目標に活性化させる。
 - ・組織的ないじめ撲滅の初期対応を徹底するために、教職員を始め学校関係者全員の「気づき」を大切にするとともに、重大事案に関しては警察をはじめとする関係機関との連携を図る。
 - ・不登校対策については、教員間の情報交換をもとに、支援員・明豊ルームなどの有効活用を進め、個に応じた対応を図る。
 - ・特別支援に関しては、特別支援教育コーディネーター及び巡回指導員を中心とした校内組織を整備し、情報の交換や個に応じた適切な指導に関しての情報交換や指導の工夫を共有する。
 - ・SCやSSW、その他児相などの関係機関との連携に関して、さらに迅速化するとともに一層深化させ、「安定した心」を育て、自他を大切に、共存する意識を育てる。
- ・運動に親しむ能力や態度を育成し、自らの健康を考えられる生徒を育てるとともに、教師自ら範を示し、最後までやり抜く体力・気力を鍛える態度を示す。
 - ・生活上の危険を排除する意識を高めるとともに、食の安全に配慮し、個々の体調や状況に応じた食の提供を図る。
 - ・部活動においては、練習の努力や試合の成果に基づく達成感、文化部では活動のクオリティー向上、地域との連携協働意識向上や実践を進めるとともに、生徒個々の安全な「居場所」としての役割を持たせる。そのため必ず顧問などが直接同席指導し、生徒とともに作り上げる活動をすすめる。また、現存部活の活動継続並びに職員の負担軽減のため、活動日程や内容などを工夫する。